

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2022年6月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2022年6月10日～6月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 122社
- 回収率 61.0%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の6月の状況を見ると業況DIは、前月より0.8ポイント改善の▲24.0となった。

2017年9月以来58ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲24.0、当月と比べ横ばいが見込まれる。

## 旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 2022年7月～ 2022年9月
業況	▲25.2	▲35.4	▲28.1	▲24.4	▲24.8	▲24.0	▲24.0
売上	▲10.0	▲26.8	▲15.9	▲17.4	▲6.2	0.9	▲5.8
採算	▲27.5	▲33.9	▲29.8	▲29.1	▲24.8	▲21.5	▲26.5
仕入単価	▲68.7	▲68.5	▲74.2	▲78.7	▲76.7	▲79.3	▲72.8
販売単価	13.0	14.2	18.2	22.0	26.3	30.6	28.9
従業員	23.7	21.3	28.1	25.2	34.1	30.6	33.9
資金繰り	▲11.5	▲22.0	▲18.2	▲15.7	▲11.6	▲15.7	▲13.1

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 2022年7月～ 2022年9月
建設	▲27.6	▲35.7	▲34.5	▲27.6	▲46.7	▲38.0	▲34.5
製造	▲9.7	▲23.3	▲6.9	▲22.6	▲20.0	▲25.0	▲25.0
卸売	▲28.5	▲35.7	▲30.0	▲28.5	▲22.2	▲7.4	▲7.4
小売	▲44.4	▲44.4	▲38.9	▲22.2	▲20.0	▲36.9	▲47.3
サービス	▲24.0	▲43.5	▲34.6	▲19.1	▲9.1	▲11.1	▲5.5

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度の公共工事の発注状況が早く、相応の受注を確保できた。売上については工事進行基準を採用しているため、現段階では判断できかねる。採算性については今後の天候の影響及び設計変更により左右されるため現段階では判断できかねる。（総合工事）</li> <li>・化学肥料の値上がり、入手難等で見積の提出が困難になった。（設備その他）</li> <li>・人材の確保難と原材料価格上昇による採算性の悪化が課題である。現況に問題はないが、今後は原材料不足や入荷遅延などで竣工時期のずれ込みが予想され、売上高に影響が出る可能性を秘めている。（建築業）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕入原材料の値上げが大きく、やむを得ず販売価格を見直し値上げに踏み切った。ただ、約 3 年ぶりの対面での直接商談で見積依頼が増えているものの売上増に繋がるのはまだ先になりそう。（食料品）</li> <li>・今年 1 月メーカーより印刷用紙 15%以上の値上げに続き 7 月から再度 15%以上の値上げが通告され非常に頭を痛めている。（印刷・出版）</li> <li>・木材・石油精製品、部品の値上がりが相次ぎ、かなり経営を圧迫している。商品単価を上げたがしばらくは買い控えがあるとされるため今年いっぱい苦戦が続くと考えている。（家具・木材）</li> <li>・資材調達が難しい物品が敬具される。スペックの見直しを行っている。（金属窯業他）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・値上げ前の買い控え需要も少々あるが、海外からの製品の欠品も相次ぎ、メリットとデメリットが混在する感じがある。（繊維）</li> <li>・仕入価格の変動が激しいため長期間の施工については受けることができない状態。（機械鋼材）</li> <li>・灯油ほか石油製品全般について高値で推移しており、先行き不透明な状態が続くと思われる。（その他）</li> <li>・仕入れ価格は高止まりが続いており、販売価格に反映させることが急務を思料する。業況的には前年同月と比較、売上高は若干減少するもおおむね良好に推移している。（その他）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来店客が非常に少なく売上がゼロの日があり、大変厳しい状況。顧客中心に販売し、SNS にて商品情報を発信している。（衣服身回品）</li> <li>・5 月は GW があり少し人の動きがあったが、その後はまた静かになってしまった。これから良い季節に向けて飲食店がにぎわってくれることを祈っている。（食料品）</li> <li>・原油高騰により仕入れ価格が上昇しているため販売価格を引き上げざるを得ない。そのため節約志向が堅調になり販売が伸び悩む可能性がある。一方でコロナ感染対策が緩和され観光需要などは増加する期待がある。（その他）</li> <li>・仕入単価は軒並み上がっているが、その分販売単価も上がっている。これから観光シーズンを迎えるにあたり、しばらく旅行に来ていない方たちが旭川に来てくれることに期待している。（その他）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナにより旅行者の減少によりホテル宿泊者が減少し、宿泊シーツタオル類が減少している。まだまだ減少は続くであろう。（理美容・クリーニング）</li> <li>・一時の最悪期のコロナ禍からは脱出しつつあるが、まだまだ不足気味。（ホテル・旅館）</li> <li>・新年度当初より公共・民間工事共に順調に売上を伸ばしているが人手不足の為、外注に頼らざるを得ない状況が続く。（その他）</li> <li>・売上は徐々に回復して来ているが、食材の値上げが止まらない。売上は増加しても利益にならない。（飲食）</li> <li>・都市間・市内路線共に利用者の回復基調にある。また旭川市が実施した「あさひかわバス無料 DAY」により、市内イベントの実施と相まって、多くの利用があり回復の後押しをしている。今後、旭川札幌等の各種イベントの実施に伴い利用者の増が予想される。一方燃料価格の高騰により厳しい状況が続いている。乗務員不足については、更に一段と悪化しており現在の輸送体制の維持が非常に厳しい状況となっている。（運送）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI11.2 ポイント悪化、採算 DI8.3 ポイント悪化、仕入単価 DI0.7 ポイント改善、販売単価 DI3.8 ポイント改善、資金 DI6.9 ポイント悪化、従業員 DI5.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 8.7 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、建築業横ばい、総合工事 14 ポイント、設備・その他 7 ポイント改善となった。当社の工事受注量は、昨年と比べ戸建てを中心に減少していて今後も減少傾向は続く予想している。また、物価上昇についてはボディーブローのように急激ではないが、しかし確実に利益を圧迫し始めている。一方、人材については将来を見据えての対応が必要であると判断し、足元の業績悪化の不安は残るが即戦力（資格保有者）と若い人材の確保を積極的に進めていくとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI0.7 ポイント改善、採算 DI19.3 ポイント改善、仕入単価 DI3.1 ポイント悪化、販売単価 DI16.8 ポイント改善、資金 DI11.4 ポイント悪化、従業員 DI0.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 5.0 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 6 ポイント、印刷出版 60 ポイント悪化、家具・木材 13 ポイント、金属窯業他 7 ポイント改善となった。前年に比べ売上高増加傾向にあるが、コロナ前に比べたらまだまだ減少傾向にあるとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI37.0 ポイント改善、採算 DI14.8 ポイント改善、仕入単価 DI3.7 ポイント悪化、販売単価 DI7.4 ポイント改善、資金 DI3.7 ポイント改善、従業員 DI7.4 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 14.8 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 8 ポイント悪化、繊維・衣服等 40 ポイント、機械鋼材 14 ポイント、その他 24 ポイント改善となった。5 月以前よりは業況感が改善しているとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI14.5 ポイント改善、採算 DI12.1 ポイント悪化、仕入単価 DI2.6 ポイント改善、販売単価 DI14.7 ポイント悪化、資金 DI6.3 ポイント悪化、従業員 DI6.6 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 16.9 ポイント悪化となった。業種別では、自動車 30 ポイント改善、衣料品横ばい、食料品 60 ポイント、その他 29 ポイント悪化となった。半導体不足の影響で出荷停止の商品もあり見通しが立たないとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI11.6 ポイント悪化、採算 DI1.1 ポイント悪化、仕入単価 DI10.6 ポイント悪化、販売単価 DI3.5 ポイント悪化、資金 DI2.6 ポイント改善、従業員 DI11.1 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 2.0 ポイント悪化となった。業種別では、その他 8 ポイント、飲食 25 ポイント、運送 33 ポイント改善、ホテル・旅館横ばい、理美容・クリーニング 200 ポイント、整備業 20 ポイント悪化となった。水道光熱費・食材仕入の上昇、人員不足との声も寄せられている。</p>